



# やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

## 自分だけの「神様」

校長 萩原 哲哉

残暑お見舞い申し上げます。

暑い夏が続いています。「猛暑」の言葉では言い尽くせないようで、「酷暑」「激暑」「炎暑」といった新聞の見出し語も見られます。

学区内では雑木林付近を通ると、力いっぱい鳴く蝉の声が響き渡っています。夏の風物詩、蝉時雨。数匹程度の声なら「聞こえる」「耳にする」くらいでよいのですが、とてもそんな数ではありません。「降り注いでくる」でも物足りない、「襲い掛かって来る」気さえします。ツクツクボウシが鳴き始めると、夏の終わりが近づきます。夏祭りや花火大会など、夏の風物詩が軒並み中止になる中、花や虫たちが、季節のうつろいを知らせてくれます。「変わらないものがここにある」と、教えられた思いがします。

夏の風物詩と言えば、高校野球・甲子園大会。今年は「2020年甲子園高校野球交流試合」として、春の選抜大会に出場予定校が、それぞれ一試合だけの試合を行いました。辛い境遇に耐え、全力でプレーする高校球児の姿には、涙を禁じえず、すべてのチームに声援を送りました。

ある高校の監督さんが、試合後、このような趣旨のことをおっしゃっていました。

「野球の神様が御褒美をくださった。」

劇的なサヨナラゲームで勝利したことへのコメントですが、当然、このような状況の中、特別な大会の場を設け、甲子園でプレーする機会を得たことも含んでいます。この場合の「神様」は、信仰や宗教的なものではなく、一人ひとりが大切にしている物事に宿るものを差します。国語の「わらぐつの中の神様」という教材や、植村花菜さんの「トイレの神様」という曲のそれも、同じ意味でしょう。目には見えませんが、人によって何にそれを感じ取るかはさまざまです。「名探偵コナン」にも、車通りのない赤信号を渡ろうとしたことに対して、「(信号を守らないで横断したことは)自分自身が見ている。」といったくだりがありましたね。

つまり、自分が信じるものそのものが、「神様」になるのだと思います。

一学期終業式では、アニメキャラクターの新聞広告「大丈夫、未来は元気だよ」を紹介し、二学期始業式では、一休禅師が弟子たちに残した遺言「大丈夫。心配するな。何とかなる。」の話をしました。この先どうなるのか、先が見えないことは、だれにとっても不安なことです。だからこそ、自分が信じるものを自覚し、あるいは見つけ、それを自分だけの「神様」として大切にしながら、今しばらく続くであろう、現在の状況を共に乗り越えていければと思います。

コロナだけでなく、熱中症にも十分御注意ください。2学期もどうぞよろしく願いいたします。